

映画「この世界の片隅に」プレミア上映会をグアナファト州で開催 — 片淵監督、のんさんが舞台挨拶をされました —

広島・呉を舞台にした映画「この世界の片隅に」のプレミア上映会が、世界 23 カ国地域以上の公開に先がけ、2017 年 2 月 24 日 - 25 日、メキシコ合衆国、グアナファト州の 3 都市（サラマンカ、イラプアト、レオン）で開催されました。

ご存じの方も多いかと思いますが、この映画は、第 40 回日本アカデミー賞で、「最優秀アニメーション作品賞」を、広島国際映画祭 2016 で「第 1 回ヒロシマ平和映画賞」を受賞した素晴らしい作品で、主人公の「すずさん」はじめ、戦時中という大変な時代においても、一生懸命に、ごくふつうの暮らしを営み続けようとした人々の姿が描かれています。

当初、制作やプロモーション費用の一部をクラウドファンディングで調達され、封切り日の公開館数もわずか 63 館であったこの映画、徐々に規模を拡大し、今も異例のヒットが続けています。

広島とグアナファトの架け橋となるべく活動を続けている当協会にとっても、この映画のグアナファトでの上映は嬉しいニュース。この上映会の様子を皆さまにご報告いたします。

■グアナファト州でのプレミア上映会

「この世界の片隅に」プレミア上映会は、2 月 23 日、メキシコシティで開催された後、広島企業が多数進出しているグアナファト州に舞台を移し、24 日にサラマンカ市で、25 日にレオン市で開催されました。



メキシコ式カウボーイ「チャーロス」の衣装で舞台挨拶を行う「すずさん」の声を演じた「のん」さん

サラマンカ市でのプレミア上映会が実現したきっかけは、同映画のメキシコでの配給連絡を受けた在メキシコ日本国大使の一言でした。

「広島を舞台にしている映画なのだから、広島の企業、マツダの工場があるグアナファト州でも公開してはどうか。是非、マツダに相談してみては。」

グアナファトに進出している広島の企業にとって、現地の従業員に、故郷である広島のことを知ってもらうこと、理解してもらうことは、大変大切なことです。

映画は、サッカー、音楽に並び、メキシコの3大娯楽のひとつ。日本のアニメ映画であれば、グアナファトの人々に、日本の、広島の心が伝わるのではないかと。

大使のご提案を受けたマツダのメキシコ工場（Mazda de Mexico Vehicle Operation）は、制作陣のサラマンカでの移動手段や通訳アレンジを提供する形で、サラマンカでの公開をバックアップすることになりました。

サラマンカ市の上映会には、サラマンカ市長、グアナファト州経済局長が駆けつけ、マツダ、メキシコ工場の従業員とその家族、在サラマンカ邦人、約400名とともに映画を鑑賞しました。映画上映前には、マツダのヘリテージビデオで、広島がいかに戦後の荒廃した姿から復興をとげたか、も見てもらいました。メキシコの人々は映画に興味深く見入っていたようで、「主人公の強く生きる姿に勇気をもらった」「辛いことがあってもいつも笑っていたよと思った」といった前向きな感想が、多く寄せられたそうです。



映画館に集まった現地メキシコの人々



プレミア上映会に先立ち、片淵監督、のんさん御一行が、マツダのメキシコ工場を見学

イラプアト市の上映会では、日本語のオリジナル版にスペイン語字幕をつけたものが上映され、広島からの進出企業の従業員とその家族、約 350 名が、メキシコの人々とともに、まるで日本にいるかのように、日本語での上映を楽しみました。





制作会社の(株)GENCO 真木プロデューサー(左)、グアナファト州マルケス知事(右)と、のんさん

イラプアトでの上映には、グアナファト州のマルケス知事もご出席になりました。

のんさんは、この日は艶やかな和装で登場し、この映画への熱い思いがこもった挨拶で、会場を大いに盛り上げたそうです。

この映画のメキシコ上映に際しては、製作会社 Genco、現地配給会社 Arcade Media、株式会社 Encounter Japan が尽力されたとのこと。

今後もタイ、アルゼンチン他南米諸国、香港、イギリス、ドイツ、アメリカ、フランスと海外での公開が続いていくそうですが、日本と広島のを伝えるこの映画が、色々な人々の協力を得て、世界の多くの人々に愛される映画となることを願います。